



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2022

9月30日号

190
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

夏の思い出



副会長 佐藤 龍一

9月に入り、朝晩は涼しく秋を感じるようになりましたが、まだ日中は暑い日が続いておりませんが体調は崩していないでしょうか。

今年の夏は、猛暑（暑い夏）と集中豪雨（線状降水帯）・地震・火山の噴火など各地で自然災害が発生している。幸い福島県においては、今のところ大きな災害は無い様だが、今後台風シーズンを迎え大きな災害にならないければよいのだが。

夏といえば全国高校野球選手権大会（夏の甲子園）、こちらも熱かった。深紅の大優勝旗が悲願の‘白河の関’越えを果たした。本県代表とはいかなかったが、ベスト4入りを果たし、次は県勢の初優勝を期待している。

その一方でコロナウイルス感染症は、感染力の強いBA.5系統のオミクロン株が登場し感染拡大がまだ続いている。首都圏を中心の大都市圏では新規感染者数は減少に転じているが、本県では、まだ落ち着きが見られていない。会員の皆様の施設においても医療従事者の感染・濃厚接触者として療養の必要性に迫られた方々もいたのではないのでしょうか。報道をみると、感染者の全数把握を無くす・療養期間の短縮・療養中でも症状が落ち着けばマスク着用での外出（買い物）を可能にするなど、感染症法上の位置付けの変更を模索している様に思える。現状患者さんにはフルPPEでの対応が必要である。施設内は冷房が効いているが、やはりビニール製のエプロン・手袋着用での長時間の対応になってくると蒸し風呂状態でこちらも熱い夏であった。来年の夏は、気持ち的には涼しい夏であってほしい。

‘歴史は繰り返す’なる言葉を思い浮かべ約100年前に流行した感染症（スペインかぜ）についてウィキペディアを見てみると、【一般的に1918年から1920年にかけて全世界的に大流行したH1N1亜型インフルエンザの通称。アメリカ予防疾病予防管理センター（CDC）によるインフルエンザ・パンデミック重度指数（PSI）においては最上位のカテゴリー5に分類される。全世界で5億人が感染したとされ、世界人口（18-19億）のおよそ27%（CDCによれば3分の1）とされている。死亡者数は5000万-1億人以上、おそらくは1億人を超えていたと推定されており、人類史上最も死者を出したパンデミックのひとつである。現状の歴史的・疫学的データでは、その地理的起源を特定できない。また、なぜ終息したのかも、依然として研究対象である。流行源は特定できないが、初期にスペインから感染拡大の情報がもたらされたため、その名で呼ばれている。パンデミックが始まった1918年は第一次世界大戦中であり世界で情報が検閲されていた中でスペインが中立国であったため戦時の情報統制下になく、感染症による被害が自由に報道されていた。】以下、表記・経緯・病原体など詳しい説明がされている。約1世紀前のことであるがなぜ終息したのかも不明である。COVID-19の発生から終息のメカニズムは、おいおい研究・発表されるであろうが、まずは早期の終息を願う。

季節は秋となり、‘食欲の秋・スポーツの秋・芸術の秋…’いろいろな秋がある。まだ、現状では秋晴れとはいかないが会員の皆様にとって有益な秋であれば幸いである。

福島県立医科大学 保健科学部診療放射線科学科だより

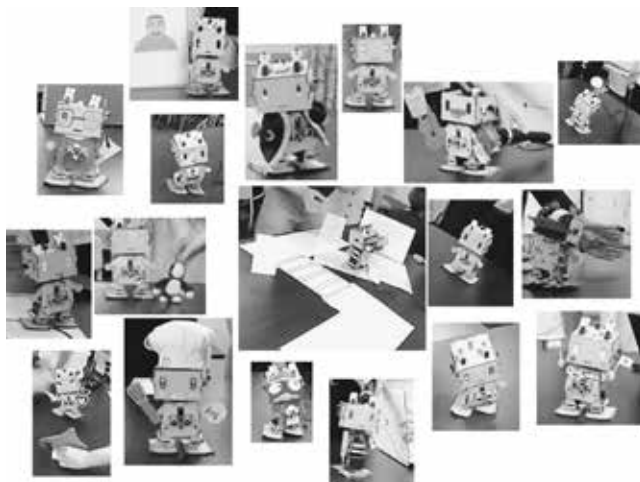
福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 久保 均

皆さま、こんにちは。本稿執筆時は、学生は夏休み中です。久しぶりに新型コロナ感染予防の行動制限がない夏休みで、学生達はどのように行動していますでしょうか…。社会へ出たら二度と得ることができない長期の休みですので、是非とも有意義に過ごしていただきたいものです。

さて、前号までで本年度着任された先生方のご紹介をさせていただきました。今回は、学生の大学生活を少し切り取ってご紹介したいと思います。新型コロナウイルス感染拡大の学生への影響は甚大で、保健科学部では何とか対面授業を行ってはいますが新型コロナが出る前のちょうど先生方が経験した学生生活とは大きく異なってしまっています。その中でも、学生達は一生懸命大学生活をこなしています。もちろん大学での様々な授業や行事で様々な経験をしていますが、今回は筆者の久保が関係した2つのイベントをご紹介します。

・医用工学実験

これは2年生前期で履修する、必修科目です。国家試験にこの科目がある診療放射線科学科と臨床検査学科が必修科目で、理学療法学科と作業療法学科は選択科目となっています。1年生後期で履修する医用工学の講義で学修した内容を、実験でしっかりと体得するための科目です。内容はいわゆる電気・電子工学で、先生方も学生時代に必ず履修したはずですが（まだ国家試験の科目の一つです）。私自身は、学生時代はこの科目をクラスの皆で電電（でんでん）と呼んでいました。私自身は昔から電気工作などをしていましたので嫌いではなかったですが、嫌いな同級生は多かったですね…。前の職場（徳島大学）でもよくわからない、という学生の声をたくさん聞いていましたので、何か楽しくできるような内容にできないか、と授業内容の計画時に考えました。そして、E-Station (<http://m-gic.com/e-station/>) という電気・電子実験キットを用いた電子回路、半導体回路、アナログ回路、パルス回路、AD/DA変換回路などの実験を行うと共に、ピッコロボ (https://www.vstone.co.jp/products/piccorobo_iot/index.html) というArduino互換ボード搭載の2足歩行ロボットの製作、というテーマを入れることとしました。これは、サーボモーター4個による4自由度を有する2足歩行が可能なロボットで、超音波等のセンサーを搭載し、WiFi通信機能を搭載しているためにセンサーやプログラミングによる様々な動作制御が可能な見た目が非常に可愛いロボットキットです。これを、3～4人で班分けした実験班に一体ずつ渡し、自由に製作してもらいました。最後の日に製作ロボット動作発表会を実施し、班毎に製作したロボットの動作を皆の前で披露する会を催しました。最低2分動作させること、どのような装飾をしようが音を出そうがどのような制御をしようが全くの自由、という条件のみを与え、後は学生達のアイデアに任せました。その結果、写真のような様々なピッコロボが総計18体できあがり、様々なストーリーと共に動作が発表され大変楽しい発表会となりました。思った通りに動作した班、直前に動かなくなってしまった班、そもそも動きが不自由でその制限の中で工夫した動きを見せた班など、学生達の素晴らしい発想がみられました。音楽を奏でた班も多く、賑やかかつ華やかでした。班で一つのものを創りあげ皆の前で発表する、という過程を通じ、様々なことを学修してくれたと思っています。特に半導体などのデバイス一つ一つの特性を学んだ後にそれらをシステムとして使用するロボット製作を行いましたので、個々のデバイスの動きの総体がシステムとしての動作となることを学んでくれました。残念ながら本年は必修である放射線と検査の学生のみの履修でしたが、医療の現場で電気電



子デバイスを使わないことはあり得ないので、是非多くの学生さんに履修していただきたい、と思っています。

・英国体験ツアー（ブリティッシュヒルズ）

福島県岩瀬郡天栄村にあるブリティッシュヒルズというところは、もしかすると福島県の皆さんは小学校や中学校等の学校活動として訪問したことがあるのでしょうか？この施設は民間の施設ですが、日本において英国文化を体験できる施設ということで、全て英語でコミュニケーションする、というところなんです。今は新型コロナウイルス感染のために海外旅行などなかなか気軽にいける状況ではありませんが、学生さんが将来海外旅行へ行くための準備、そして国際交流や大学院に入って海外での学会へ参加する等で必要となってくる英語でコミュニケーションする体験をするために、英国体験ツアーというものを企画しました。これは有志の企画ではありましたが、保健科学部の学生に声をかけたところ診療放射線科学科と理学療法学科の1年生と2年生のあわせて12名が参加してくれました。1泊2日の短期間ではありましたが、3つのレッスンやテーブルマナー講座を含んだフルコースディナーなど盛りだくさんの内容でした。滞在中は全て英語ということで、学生さん達は様々な場面で自分の意見を何とか英語で伝えようと必死でした。また、夕食後に皆でいったパブでは、英語でお酒や飲み物を頼みながらダーツ等に興じて楽しい夜を過ごしました。これを機会に、是非海外にも興味を持ってもらって、将来は国際交流等に積極的に貢献していただきたいと思っています。



このように、学生は新型コロナウイルス感染の影響で不自由な中、精一杯がんばって大学生活を送ってくれています。9月の最終週からは、いよいよ後期が始まります。皆が元気に学校に戻ってきてくれることを願っています。

～ 県会長＆東北地域理事 「オンレコ」 ～

1 「JART第3回理事会」

7月9日午後に事務所からWeb参加しましたが、本当に4時間もかかり驚きました。地域理事として東北からの提案7題（福島県2題）を質問させていただきましたが、他の地域は北海道（1題）以外で発言がないこれも驚きました。

2 「JART 75周年式典」

7月16日に東京の日経ホールで開催されました。会長そして厚生労働大臣表彰者として参加をしました。この表彰は、福島県技師会の功績について私が代表していただいたものと思います。

3 「地域連絡会（全国会長会議）」

7月17日にはJART事務所で会議があり参加をしました。第3回理事会では各地域からの質問はほぼありませんでしたが、各県会長からは告示研修についての不満等の質問が多く出ました。

4 「第1回東北会長及び教育委員の会議合同会議」

7月25日に県のWebex法人版を借りて開催を行いました。ここでも告示研修での各県の負担や首都圏からの参加者について多くの意見をいただきました。また、みちのくこまちの活動についても検討して行きます。議事録を作成してJARTへ提出しました。この会は年2回以上ですが、9月下旬

にも第2回を開催します。

通常はTCRT前日と2月頃のみですが、色々と課題が山積しているため開催を増やしています。

5 「県事務所 現状や備品購入」

今年度、各地域で行われた告示研修の荷物を保管する場所としても重宝しています。事務所での集荷や受取は事務員が全て行ってくれました。

1階の研修センターにエアコンがなかったので設置を行いました。同時に消火器や火災報知器の取り付けも行いました。感染が終息すれば、小さな集まりや勉強会にぜひ使って欲しいと思います。まだ全て備品が揃ってはいませんが、これから徐々に充実させていきます。

6 「JART地域理事会議」

都道府県イベントポータルサイトについて、各

県の意見を地域理事かまとめる事になり参加しました。初期費用が高い事、県内では無料の勉強会が多い事からメリットが少なく福島県も参加を見送りました。全国でも九州以外はほぼ参加しません。

7 「医療画像情報精度管理士分科会」

地域理事になり上田会長から、この分科会の担当を任命されました。なにも分からずJART全国大会(神戸)のセッションを話し合いました。メンバーに石森理事や宮城県坂本会長や熊本大池田さんの知り合いが居て心強かったです。大会3日目に「サイバー攻撃の事例と対策」をテーマに行います。

8 「TCRT2022 新潟開催」

ハイブリッド開催ではなく現地開催となりました。お間違いのないように注意してください。

告示研修開催

令和4年7月30・31日両日、いわき市医療センターにて告示研修が開催されました。

新型コロナウイルス感染拡大第7波といわれている中での開催でしたが、県内外より78名の参加者があり無事終了することが出来ました。



(告示研修の様子)

令和4年度 学術大会開催のお知らせ！！

政府及び福島県から発表された感染症拡大防止ガイドラインを踏まえ感染対策に取り組んだ上で、3年ぶりに会場にて開催(ハイブリット開催)いたします。多くの会員皆様のご参加をお待ちしております。参加につきましては、「プログラム・抄録集」、県技師会ホームページ(<https://fart.jp/>)をご確認ください。

問合せ先：gakujitu@fart.jp



令和4年度
(公社)福島県診療放射線技師会
診療放射線技師
学術大会

令和4年10月30日(日) 午前9時～午後5時
ハイブリット開催

会場：福島県立医科大学保健科学部

駅前キャンパス

You tube Live配信

◎一般公開講座：

福島県立医科大学

保健科学部診療放射線科学科

准教授 五月女 康作 先生

◎論文賞受賞講演

一般財団法人大原記念財団大原綜合病院

画像診断センター

村松 駿 さん

J A 福島厚生連 白河厚生総合病院

小室 敦司 さん

◎ランチョンセミナー

奥州市総合水沢病院

高橋 伸光 先生

◎シンポジウム (FART企画)

Covid-19と放射線診療

◎研究発表

地 区 だ よ り

県 南 地 区

「令和4年度 県南地区サマーセミナー」開催

令和4年7月30日「令和4年度 県南地区サマーセミナー」が開催されました。

依然として新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況であることを考慮し、令和3年度の新年勉強会同様Webexによるオンライン形式にて行われました。

参加者は、会員37名、非会員6名でありました。セミナーは大きく3つのセッションにて行われました。

メーカ話題提供として「シーメンス社 Photon Counting CT」、「フィリップス社Blue Seal Magnet」の2社からの情報がありました。シーメンスのCTに関してはフォトンカウンティングCT、フィリップスのMRIについては、皆さんご存じの7リットルの液体ヘリウムで運用できる装置でありいずれも最新の情報を知ることが出来ました。

二つ目が、令和4年度診療報酬改定と獲得へ向けた「報告書管理体制加算」、「MRIでの肝エラストグラフィ加算」の2つで各々の施設での取り組み状況を発表頂き、これから取得を考えている施設にとって参考になったと思います。

三つめが、「放射線治療技術の過去・現在・未来」と題し、福島県立医科大学 保健科学部 教授の加藤先生がご経験された、数十年にわたる放射線治療技術の推移を分かりやすくご講演頂きました。ここ10年で治療技術が急激に進み、正常細胞を傷つけず癌細胞を治療する技術が出来ていることに驚き、これからの治療として、より適切に治療するための画像診断、患者心理へのアプローチ、多職種連携・チーム医療の重要性が掲げられており、我々も意識して、明日からの業務へ活かしたいと感じました。

質疑応答も活発に行われ有意義な会となりました。

一部音声が途切れる時もあったが、大きなトラブルもなくスムーズに会が終了しました。より多くの方が参加するような会になることを切に願います。

(鍵谷)

会 津 地 区

「第105回会津画像研究会」開催

令和4年8月25日(木)にHybridにて開催され、会員24名、非会員2名の計26名の参加がありました。

今回の会津画像研究会は、「フレッシュセミナー」、「新病院紹介」の2つの演題がありました。

演題①「新人技師向けフレッシュセミナー 一般撮影：上肢撮影」竹田綜合病院 栗田準一郎氏より、四肢外傷に対する画像診断の基本は一般撮影と言うことで、肩関節・肘関節・手関節のポジショニングを解説して頂きました。CTのVR (Volume Rendering) 画像での立体的な解説や正確な画像に対して、少し角度の違う画像を比較しての撮影ポイントの解説などがとても分かりやすかったです。また、成人とは骨格の違う小児の撮影ポイントの解説もして頂いたことで、新人技師の方には、基本的なポジショニングを理解したことで基本通りにポジショニングが行えない状況でも撮影が行える知識や秘訣が得られ、また、新人ではない技師の方には、苦手な撮影の克服の手助けになったのではないのでしょうか。演題②「坂下厚生総合病院 新病院紹介」坂下厚生総合病院 風間 顕成氏より、会津坂下町の紹介(馬刺しや冷やしラーメン、奇祭大俵引きが有名)から始まり坂下厚生総合病院(3階建てのナチュラル系のオレンジ色、併設の介護老人施設「なごみ」モダン系かき色)の一番の特徴は、整形外科(人工膝関節置換手術(TKA)が全国1位になったこともある)で隣県から来院される方もいるようです。

放射線科は、1階フロアにあり一般撮影室（FPD）3室、ポータブルX線撮影装置3台、マンモグラフィ装置1台、CT装置（64列）1台、X線骨密度測定装置1台、X線透視撮影装置（FPD）1台、外科用X線透視装置2台、体外式結石破碎装置（ESWL）1台、MRI装置（1.5T）1台で、MRIとESWL（検査の安全性を考慮）以外の撮影室は一直線に操作室が入れるように繋がっていて動線がとても良いです。この動線が良いと仕事の効率も上がり安心・安全な検査にも繋がるので素晴らしいですね。また、ネットワークは、電子カルテシステム、放射線科情報システム（RIS）、医療用画像管理システム（PACS）、線量管理システムが入っている最新の施設になっていて、とても素晴らしい新病院ですね。

（平澤）

浜 通 地 区

「令和4年度浜通り地区 夏期研修会・学術大会」開催

令和4年8月27日浜通り地区研修会および学術大会がWeb形式で開催されました。

いわき市で会場形式での開催の予定でしたが、急速なCOVID-19感染の広がりが終息しないためWeb形式での開催となりました。役員の皆様や発表される技師の皆様のご協力があり無事開催され、57名の方が視聴されています。

メーカー2社による最新CTの紹介、6名の若手技師の発表、最後に福島県立医科大学放射線医学講座の関野啓史先生の特別公演が行われました。今回はCTに関する演題を発表していただき、特別講演でも被ばく線量低減や画質向上のお話で充実した夏期研修会・学術大会であったと思います。関野先生からは演題発表の内容に対して好印象を持っていたようなので、発表した技師の皆さんは自信になったと思います。

しばらくはWeb開催の行事が続きそうですが、来年度の夏期講習会および学術大会は会場形式やハイブリット開催なども検討していただき参加および視聴する技師の皆さんが増えることを期待します。

（大井）

「市民フォーラム／救急医療・いわき2022」開催

令和4年9月11日「いわき市の新型コロナウイルス感染対策」と題し市民フォーラム・救急医療

いわき2022が開催されました。講演1「本市の新型コロナウイルス感染症対策について」いわき市保健所所長 新家利一氏、講演2「新型コロナウイルス感染に対するいわき市病院協議会の取り組みについて」いわき病院協議会 理事長 高萩周作氏、講演3「救急活動の現状について」いわき市消防本部の3名に講演していただきました。新型コロナウイルスの広がりは、個々の活動によるものであり1人、1人が手指消毒、マスクの着用、ソーシャルディスタンス、換気、3密回避など励行の実践や新型コロナウイルスワクチン接種などの呼び掛けなどいわき市が行ってきた新型コロナ感染対策等について表を交えながらわかりやすく教えていただきました。



（菅原）

会費納入はお済みですか？

**本会の本年度会費納入期限は、
令和4年9月30日(金)です。**

**いま一度お確かめの上、
未納の方は、至急お手続きをお願い致します。**

編 集 後 記

夏イベントが3年ぶりの開催となりました。いわき市では、海開き・いわき七夕まつり・いわき回転やぐら盆踊り大会・いわき花火大会・夏井川灯籠流しなど祭りを楽しみました。しかし、ここへ来て福島県はコロナ猛威を振るっています。入院・外来が増加し、医療現場への負荷が多いと思います。我々もしっかりマスク着用や、手や指の消毒など、基本的な感染対策を心がけ今を乗り切りましょう。

（菅原）